

多文化共生というバトンを次に ～「神戸YWCA学院」を閉じるにあたって～

神戸YWCA理事長 平山 芳子



神戸YWCAは草創期から海外に開かれたこの地で外国人との豊かな関係性を築くための働きをなしてきました。北南米へ移住する女性たちへの語学教育や生活指導などから始まり、通訳養成講座や児童英語指導者養成、さらには日本語教師養成セミナーなど語学の指導者養成に実績を重ねていきました。1988年に本科：日本語教師養成学科・日本語学科、別科：外国語科・日本語科をもって神戸YWCA学院専門学校が認可設立されたのは日本でも画期的な事でした。その際、日本語学科の主な対象者は、専門的な日本語教育を必要とする外国人留学生でした。彼らは、ここで優れた日本語能力を身につけて修了していました。本科の中の日本語教師養成学科では、その留学生に対応できる専門的な知識と実践力のある質の高い日本語教師が養成されました。



阪神淡路大震災では留学生も被災しましたが、全国からの支援もあり学院の高評価と人気はなお衰えることはありませんでした。ところが、その頃から海外の日本語学習の需要が高まって、留学生や研究者に限らず初等中等教育段階で学習する者や、職業上の実務的必要など多様な学習者が現れました。他企業の参入が激しくなり、留学生獲得が難しくなったこと、出入国管理局が留学の在留資格方針を厳しくしたこともあり、数年後には神戸YWCAで学ぶ学生が減少して専門学校の存続が危ぶまれる程になりました。

そこで、時代の変化と学習者の多様なニーズに適切に対応した日本語教育を続けるために、専門学校の看板を降ろし「神戸YWCA学院」として、再出発したのが2008年でした。

そもそも教育は教授者と学習者の相互関係の上に成立することを基本とします。とりわけ語学教育は、同じ空間で直接的に教授する方法が最良と考えられてきました。しかし、2020年から始まったコロナ禍によってその教授法が困難となり、授業は停止・中止を余儀なくされました。また、在留外国人の学習者の多くは、経済的な理由や日常生活の

多忙さから、経費を支払ってまで一定の時間に一つの教室に集まり学ぶことが必ずしも現実的ではなくなりました。これらに対応するため行政等と連携して、生活や職業に直結した日本語教育を試み、努力を重ね、神戸YWCA独自の事業として認められてきました。しかし行政の事業が徐々に充実して行く中で、神戸YWCAの役割も変わらざるを得ず、事業を成り立たせることは困難となっていました。以上の経緯により、本年（2025年）度をもって神戸YWCA学院を閉じるという決断をいたしました。

神戸YWCA学院を長きにわたって変わらず支えてくださった教職員、講師、修了生ほか、関係者の方々に感謝の意を表しますとともに、幾多の変遷を経てここに至りましたこと、ご理解いただきたくお願ひいたします。

「言語」はコミュニケーションの手段であると同時に文化的アイデンティティーの基盤をなすものです。高度な情報化社会が相互の交流を豊かにした一方で、排外的な分断や差別が懸念されるようになった今日、国際化の進展には「言語」がますます重要な意味をもつことになるでしょう。

今後は、神戸YWCA学院の語学教育が目指したもの、その業績内容、残された課題等の検証を通して、互いの異なる言語、文化を尊重し認め合い、理解と交流を深める多文化共生の平和な世界を実現することを活動に活かし繋いでいきたいと願っています。



夏休み勉強に役立つ日本語クラス(2019年)



1920年の創立から「教育」に取り組んできました



神戸YWCA教育事業のあゆみ



時期	年代	主な事業内容
創生期	1920	<p>3月 神戸YWCA創立 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県委託事業海外渡航者講習所開設 ・外国人婦人のための日本語クラス・GIブライダルスクール ・児童のための英語クラス・家政科(タイプライタークラス)など
各種学校神戸YWCA学院	1953	<p>各種学校「神戸YWCA家政学院」認可 → その後「神戸YWCA学院」に名称変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童英語指導者養成講座 ・同時通訳基礎コース・韓、中、スペイン語講座 ・GDM(Graded Direct Method)による英語教師養成講座 ・日本語教師養成セミナー 開講  ・海外帰国子女英語保持教室開始 → 2020年度まで継続 
神戸YWCA学院専門学校	1988	<p>各種学校から専修学校へ「神戸YWCA学院専門学校」となる。</p> <p>本科「日本語教師養成学科・日本語学科」別科「外国語科(ICC)・日本語科」設置</p> <p>【日本語教師養成学科】第1期生56人、専門コース新設(1989)、本科から別科へ移設(1998)</p> <p>【日本語学科】12カ国からの留学生でスタート。学生数121人(1991年)</p> <p>【外国語科】「カレッジコース」設置、新入生70人</p> <p>【日本語科】企業等への出張レッスン、プライベートレッスン</p>
神戸YWCA学院	1995	1月 阪神・淡路大震災発生 
	2007	4月 神戸YWCA学院専門学校 閉校
	2008	<p>「神戸YWCA学院」に名称変更 </p> <p>日本語コース、日本語教師養成コース、外国語コース、地域福祉コース、文化教養コース 設置</p> <p>【日本語コース】・日本語教師養成コースの修了生が中心になって、「子どもの日本語勉強会」立ち上げ。文化庁助成金事業「子ども日本語」クラス実施。「はっぴい・すぐーる神戸Y」を立ち上げ。「学校にはいるための日本語」「夏休み勉強に役立つ日本語クラス」「はっぴー・さぽーと／すぐーる」につながる</p> <p>・文化庁助成「地域における長期的日本語教育の普及」に関する協議会実施</p> <p>・厚生労働省基金訓練を経て、兵庫県立神戸高等技術専門学院委託事業「定住外国人向け日本語・就業力スキルアップコース」</p> <p>・多文化共生社会の実現に向けた「やさしい日本語」普及活動、開始。神戸市中央区赤い羽根地域作り助成事業「やさしい日本語」啓発と冊子作成</p> <p>【日本語教師養成コース】・「日本語ボランティア養成講座」 </p> <p>【地域福祉コース】・厚生労働省基金訓練「ホームヘルパー2級課程」 ・「障害者ガイドヘルパー養成コース」開講</p> <p>【外国語コース】・看護専門学校の英語クラス 受託開始</p>
	2026	3月 神戸YWCA学院 閉校

外国にルーツをもつ子どもたちと共に

- 教育だけでなく「交流」「居場所」「誰もが活躍できる場」として -



今年度も「夏休み勉強に役立つ日本語クラス」を事故もなく、無事に終えることができました。2008年に先輩方が「プレスクール構想」として始めた当時、この新たな試みはなかなか周知されませんでした。時代に合わせて形を変えつつ、「子ども日本語トータル・サポート」に発展し、コロナ禍にオリジナル教材はオンライン上でも使用可能になりました。そして、「外国にルーツを持つ子どもたち」を対象とする日本語教育がやっと社会に認知されました。神戸YWCA学院の日本語事業は、日本語教師が外国の方々に日本語を教えるだけではありません。今後、日本での生活において課題に

なるであろうことをいち早く見つけ出し、より良い方向を示す役割も担っていました。

先日、このプログラムのミーティングの中で思い出話に花が咲きました。17年間もこのプログラムが継続できた理由として、マンパワーが挙げられました。講師、ボランティア、神戸YWCAの会員、スタッフ、そして、このクラスを修了した子どもたちです。この人たちがいたからこそ、クラス修了後の受け皿として、継続プログラム「はっぴー・すくーる」を用意できました。ここでは学習以外にも居場所として、子どもの成長を見守り続けました。先輩として成長した子どもたちは母語、

英語で後輩を支援し、活躍できる場を持つことができるようになりました。このプログラムは、神戸YWCAの根源である異文化交流・理解、居場所、誰もが活躍できる場を生み出してきました。ですから、ここまで継続できたのでしょうか。プログラムで培った人間関係や考えは、今後も私たちの中に残り、各々がそれぞれの形で子どもたちの支援を続けることになるでしょう。

17年間で200人の子どもたちが卒業しました。学院を閉じるまえに、子どもたち、支援してくださった方々と会う機会を持ちたいです。

(日本語コース・副主任 小川佐由理)



大きく変化する外国語教育の現場で



1992年入職以来 2006年8月 総幹事代行就任まで、私は外国語科を担当した。

私が担当した13年間は外国語教育を取り巻く状況が大きく変わった時代だったと思う。入職した頃の1週間のルーチンの仕事の一つは、国内外から届く外国人講師からの履歴書に返事を出すことだった。当時は円高が進み多くの外国人が日本に職を求めて来ていた。そこに日本の労働力不足も相まって1990年には日系3世への「定住者」在留資格ができ、外国語科でも日系人英語講師、スペイン語講師にお世話になった。

そういう社会情勢もあり外国語教育熱は高く、英語クラスは大人も子どももさほどの努力をせずとも申込者があった(93年度延べ在籍数:大人162人・子ども125人)。

そして、会館外でもカルチャーセンター、自治体職員研修などたくさんのクラスを開催した。

しかし、そんな時代は長続きせず少し翳りが見え始めた頃、冬学期が始まったばかりの1995年1月、阪神大震災に見舞われた。冬学期は休校にしたが、1995年度春学期も交通機関が完全回復していない中、受講生は十分戻ってこられなかった。以来、私が担当を離れる直前の2005年度、館内クラス在籍は、大人108人、子ども12人だった。その間、民間の英会話スクールチェーンが数多く生まれ、外国語教育界に熾烈な競争が生まれていたことが記憶に残る。

神戸YWCAの外国語教育は言語の習得とともに異文化理解・交流に重点を置き、数々のプログラム(料理教室、女性交流の旅、小

学生異文化体験プログラム、専門家による特別講座、韓国語スピーチコンテスト等)を実施した。今でも受講生からあのクラスが良かったと言われことがある。



異文化体験プログラム

私個人の楽しい思い出の一つは、担当在職中からYWCA退職後の2019年まで続いた、英語で青少年向け文学作品を読むクラスだ。16年間で18冊を読んだ。2004年にはカルチャーセンターに提案して宝塚で2年ほどクラスを持たせていただいた。受講生とともに読後感を語り合うのは私にとって至福の時間だった。

(元神戸YWCA学院学院長 川辺比呂子)



神戸YWCA会館

●わいわいデイルーム

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時30分～14時30分
対象：神戸市在住の65歳以上で、自分で
通って来られる方。
*近くの「あんしんすこやかセンター」でお
申し込みください。



●木曜カフェ

第2・4木曜日、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながら、
ほっこりしませんか。(1ドリンク100円～)
*12月と1月は日程変更あり。

お問い合わせください。



●文学講座

第3火曜日、13時30分～15時30分
更級日記を読み進めています。
一緒にいかがですか。

なだのはまエイト

●丹波太郎の新鮮野菜市と
ミニミニバザー

毎週金曜日、13時～14時



●みんなのカフェ

毎月第3日曜日、10時～12時
参加費：200円



その他

●カフェもぐもぐ

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
毎月第1土曜日、10時30分～15時
場所：日本基督教団神戸聖愛教会
参加費：900円(食事付)
*要予約。日程変更もあるので事前に
お問い合わせください。

その他

●神戸YWCAクリスマス

日時：12月6日(土) 13時30分礼拝 /
14時30分祝会(～15時30分)

場所：神戸YWCA会館

テーマ：全ての人が大切にされるように
奨励：金 茶云宣教師
(日本基督教団神戸教会)
*祝会ではお茶・お菓子、またクリスマス
マーケットをお楽しみください。



●ピース・ブリッジ

学び 語り合い つながる会
『ひとはなぜ戦争をするのか』

日時：12月13日(土) 14時～16時

場所：喫茶「エスボワール」

(阪急六甲駅南側)

会費：1,000円(資料、ワンドリンク代込)

学院だより

先日、30数年前に日本語学科に在籍していた元留学生から、有意義に過ごせた学院生活への感謝として匿名のご寄付をいただいた。

思いがけない連絡に驚くとともに、先輩たちがしてきた働きが、いまも色鮮やかに生きていることに圧倒された。

(学院長 西本玲子)

保育園だより

きょうも保育室で…
様々な個性が交差しながら、
遊びが繰り返される。
子どもたちそれぞれの考え方や
気持ちを大切にしながら、寄
り添っている。
さて、どこまで見守るか、今、
声をかけるか。
その繰り返しの中に小さな喜
びを見つけ、子どもたちと分
かち合っている。
成長している。子どもたちも、
関わる大人たちも。

(園長 梅川玲子)

まごの手だより

今年の夏は異常な酷暑で、
利用者の中には入院や入所さ
れる方も多い。わいわい
デイルームの参加者数も減少。
訪問介護のヘルパーにとって
も、厳しい夏であった。

11月11日に、訪問介護で
は新職員の藤重桂子を迎えた。
常勤ヘルパーとして勤務を開始
している。

居住支援では、住宅確保に
困難を感じている。昨今の物
価高が高齢者や生活困窮者の
生活を直撃している。食料品
のみならず家賃も値上がりし
ている。生活保護の住宅扶助
の基準は2015年に引き下げ
られたままであり、課題が山
積である。(所長 寺内真子)

議を重ねていく。

(書記 住田サーラ)

岩村義雄、小川佐由理、上 紀
子、島本健二(敬称略)

評議員会・理事会
報告

<評議員会>

●6月14日(土) 第16回
定期評議員会。出席評議員7
人(欠席1人)、出席役員3人。
2024年度事業報告と決算報
告を承認、2025年度事業計画・
予算が報告された。

●以下、理事が選任された。
重任：大工原則子、寺内真子、
西本玲子、野村春美、平山芳子、
三浦啓子、宮田泰子
新任：梅川玲子、木村文子

<理事会>

●第1回理事会(6月14日)
決議により、以下が決定した。
理事長：平山芳子/常務理事：
西本玲子/業務執行理事：寺
内真子、梅川玲子

●以下、通常理事会

第2回(6月28日)第3回(7
月31日)第4回(8月18日)
第5回(9月27日)第6回(10
月27日)参加：理事9人(4
回のみ8人)、監事2人

●議決事項

・自立援助ホーム開設準備
・2026年4月以降の会館貸借
の件
・補正予算検討、承認
(総幹事 西本玲子)

編集後記

時代の流れと共に閉じてい
く活動あり、また新しく芽生
えていく活動あり。変化は前
進への希望だと感じる。(A・S)



神戸YWCA
夏季募金報告



神戸YWCA学院終了、会館
売却、新事業準備など過渡
期となる神戸YWCAのため
に応援いただきました。
大いに励まされています。
感謝します！

募金総額
(2025年6月～9月末)
822,670円